

会員の広場

『継続こそ力なり』

同好俳句会「漆の実」句会の近況

代表幹事 小山 八州史

最近テレビで芸能人の何人かに「俳句」を作ってもらい順位を決める番組が人気を得ている。面白さ可笑しさを狙っているが、彼らのセンスのよさには驚く。一芸に秀でるものは他芸に通ずというが全く感心してしまう。

日本の国は四季の変化に富み、しかも天然の佇まいも穏やかであり、国民がみな詩人の才を具えているという。ただ、隠れている才能に気づいていないだけのようにだ。

米沢有為会東京支部の俳句同好会「漆の実」のメンバーも句作経歴こそ浅いが、めきめき上達し、あぶらが載ってきた感がある。永年当句会の指導をされてこられた鈴木淳一主宰が逝去されて後も気を励ましつつ句会を継続、作品を発表してきた。

ここに本年の作品の一部をご披露する。

会員の作品（令和元年度 五十音順）

啓蟄や古びし野良着掛けてあり
風光るふるさと鮮魚選びをり

池田弁之助

春の日や表札うすれ大屋敷
やれること明日に延ばして春の月

大田 甘美

踊り子が振り向くやうに合歡の花
化けてゐる狐もゐるや夕桜

片山 丹波

遠目して牛の咀嚼や春うれひ
蚯蚓ごと堆肥積みこみ猫車

小山八州史

救急車音なく過ぐや花曇
サンダルの緒の型残す日焼かな

佐野 真

街騒をサングラスして遠ざかる
檀家代表空席のまま彼岸寺

登坂かりん

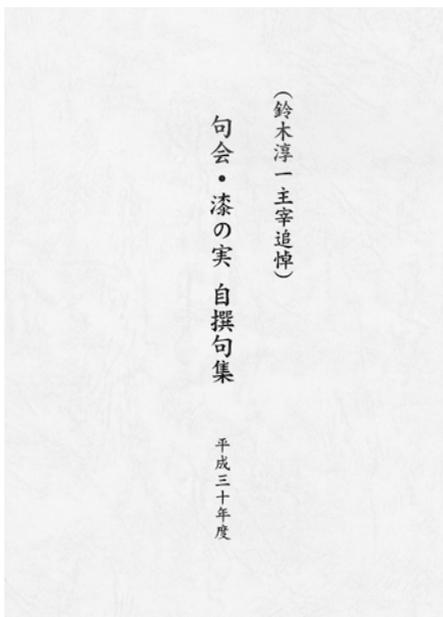
早春やカフェの珈琲掌に囲ふ
宝くじ売りと目が合ふ聖五月

濱田 扇風

春の雪検査終りて「おだいじに」
大鍋に満たす筈淡き白

松原 薫子

なお「漆の実」句会では平成三十年度自撰句集を刊行
いたしました。同年八月に逝去された鈴木淳一主宰の追
悼号を兼ねたものであります。多少の残部がございます
のでご希望の方にはご贈呈いたします。有為会事務局ま
でお申し越してください。新会員歓迎します。



「光る道」

沖津 信也

思いがけない初雪に誘われて、私は、目を輝かせ取材のハンドルを握る。

市内を通り抜け一路山間部の林道へ向かう。

突然広がる朝露の立ち込める幻想の世界に心奪われ車を止める。

正に、大自然は偉大な芸術家だ。

初雪がまだ紅葉の残る林道を純白なベールで包み、彩り豊かなドラマチックな景観を次々に展開する。

そして朝日がそっと目覚めたように林の杉木立を映し出し、地表の雪を溶かし、朝霧立ち込める林道を創る。

やがて陽光が一段と輝きを増し、進みゆく前方の道が命を宿したように力強く光りだす。

今、眼前に新時代の幕開けを告げる希望輝く「光る道」が刻々と広がり行く。

私は、時を忘れ夢中でスケッチを続けた。この熱い感動が冷めやらぬうちに。

(取材地 山形県置賜地方)



(F100号・油彩画)
(改組 新 第6回日展2019入選作)

沖津 信也

(日展会友、ル・サロン会員、白日会準会員、緑光会会長)